

鉄研通信

第15号

学校法人 清風学園
鉄道研究部発行

発行日
2021年7月28日

神戸電鉄様へのインタビュー

神戸電鉄の現状について

7月中旬、我々清風学園鉄道研究部は、神戸市北区にある神戸電鉄運輸部の、宮井勇人（みやい はやと）副部長にインタビューをさせていただきました。前回のインタビューの際にもお答えいただきました。（宮井副部長は、昨年11月の現状および、粟生線活性化への取り組みについてお聞きしました。）



神戸電鉄運輸部の宮井勇人副部長

今回、宮井副部長にお聞きした質問は我々鉄研部員一同で意見・案を出し合い決めたものです。我々の質問とそれに対する宮井副部長のご回答は次の通りです。

— 昨年度の経営状況について

A 昨年度は新型コロナウイルスの真只中であり、大変経営が苦しかったです。営業収入が約202億円と、昨々年度と比較すると、約11%（約25億円）も減少しています。また純利益は、昨々年度は約10億円だったのに対し、昨年度はできるだけコストを減らした結果、何とか約2億円になったという状況です。しかし、我々の会社は約600億円の借金を抱えており、大変厳しい状況です。

— 粟生線の利用客数について

A 前年度はその前年度よりも約20%減少しています。特に志染〜粟生の利用客数が少ないです。

— 粟生線存続の主な取り組みについて

A 大きく分けて2つあります。それは「お客様のご利用を促進すること」と、「コストを下げること」です。まず利用促進のために、新型車両（6000・6500系）の導入・駅整備による利便性の向上です。また神戸電鉄全線1日乗り放題の乗車券と沿線の飲食店や施設で利用可能な引換券がセットになった「神鉄おもてなしきっぷ」を販売しご好評を頂いております。一方、コスト削減については苦渋の決

断でしたが昼間の本数を毎時1〜2本に減らして運行しております。

— 宮井副部長の意気込みについて

A 「粟生線サポーターズくらぶ」の副会長として、クラブに入っている地域の方々などの気持ちを表現させることが大切だと考えています。そのためにも我々神戸電鉄はあくまで裏方として、実現に向けてサポートして行きたいと思っております。今後は、イベントなどを開催していき粟生線のさらなる利用促進を行っていきたいと思います。

— 粟生線の魅力について

A 風光明媚なところです。特に志染〜粟生は住宅地が減り、田んぼや山が見えたりと、景色が美しいです。

— 粟生線を残したい一番の理由について

A 粟生線は存続の危機と言われながらも、年間約670万人の方々が利用されています。その方々のためにもこの路線を残さなければならぬ、それが我々の「使命」だからです。

取材についての感想

今回取材を終えて特に感じたことは、神戸電鉄様をはじめとした、存続が危ぶまれる路線を保有される鉄道会社様が直面されている、「利用促進」と「コスト削減」のバランスの難しきです。また鉄道事業を運営していくためには、路線建設費や駅設備、車両費など莫大の初期費用をかけて、多くの場合は借金をする必要があり、事業の利益によってそれらを返済し、また新たに新線の建設や新型車両の投入などの投資を行っていくという経営をされています。実際、神戸電鉄様も公園都市線の建設に莫大の建設費がかかったとお聞きしました。しかし、このような苦しい経営状況ではあるものの赤字路線を保有される鉄道会社様は行政などとも連携をしながらしてでもその路線を残そうと常に努力されています。なぜ、そこまでして赤字路線を守ろうとされるのでしょうか、その答えは今回のインタビューで粟生線を残したい一番の理由についてお聞きした際におっしゃった「民間企業である我々にとって赤字の状態を経営を続けていくことは大変厳しいですが、粟生線を残すことが、我々の『使命』だと思っています。」という、

宮井副部長のお言葉にあるように感じました。

我々鉄道研究部も粟生線の利用促進・活性化に向けて、「粟生線活性化プロジェクト」を始動していこうと考えております。鉄道研究部として、我々に何ができるだろうということを常に考えながら活動を行ってまいります。

(取材〓杉本大悟・和田大慶)

(文〓和田大慶 写真〓杉本大悟)

